

	多品目 (通年栽培)	地域連携 (地域の仕事請け負い)	6次産業化 (加工・販売まで)
メリット	主要7、8品目程度で通年栽培可。 規模と機械化を追求することで高い工賃の実現も可能(ゆずりは会)	障害者・生活困窮者・引きこもり・高齢者まで幅広いコミュニティを構築し、新たな仕事、商品、販売先の創出が可能(UNE)	部門ごとに繁忙期が違うため、仕事のメリハリがつけやすい。「組み合わせ」はブルーオーシャンを生み出しやすい(あまみん)
課題	①品目が人材に対応可能かどうか。 ②屋内作業との掛け合わせに要工夫。 ③熱中症等の労働環境に注意。	①中山間地域で、地元で暮らしている障害者がそもそも少なかったり、福祉施設が少なく、人や施設とのマッチングがうまくいかない。 ②地域全体で収入を得て持続させる方法。	①対応する人材(利用者)育成。 ②加工等における安全性。 ③人を雇うリスク(手広く取り組む場合の固定費負担)
人	課題の解決法 ①研修を実施(閑散期/雨天時利用)。 ①地元農家/普及指導員(県)仮受け(土地の持ち主等)から教えてもらう。 ②冬場はヒートベスト、夏場はファンベストを使用。 ③外作業の多くを機械化(夏場等に屋根の下での作業を増やす)	①中山間地域の補助金を取りながら分配、自走しながら作り上げていく(リング職員と市民ボランティアらが運営するUNEで活動の主軸は、応援ゲームと福祉を掛け合わせたノウハウ連携。多様な人で集まって楽しくやるのが大事)。 ②持続化には販路の開拓が大事。JAやCOOPを巻き込むと販路等で持続可能な取り組みにしやすい。	①意思決定支援(その人がやりたいことを選ばせてあげる→体力を使いたい人に外仕事をやらせよう作業等。選択肢を増やす)。 ②安全性確保・虐待防止の研修や刃物使う場合にプロテクター等の装備を徹底。リスク評価(GAP)危険箇所、危険作業の選定。危険物への目視による防止(ゾーニング)。 ③体調や情緒を確認(異物混入等を防ぐ)。 ④外注も活用。常に仕事がある状態になるように工夫する。
課題	①施設栽培を行いたいのが、寒冷地では、暖房が必要となる。光熱費等の不安大きい。 ②大規模化、品目に応じた設備投資が必要になる。	①コミュニティ全体で費用の負担割合について不平等が生まれないように、どのように取りまとめるか。 ②運営費用はどうするか。 ③補助金などの申請母体をどこにするか。	①加工設備の投資負担がある。 ②販売まで手掛けることで需要予測をどう立てるかが重要。
金	課題の解決法 ①補助金(県の振興局 ノウフク事務局)行政とのコミュニケーション。 ②耕作放棄地と既にやっている人の中古設備を借りる。	①③ノウハウコンソーシアム等を立ち上げて公の機関を巻き込み、母体の組織が補助金を獲得することで、仲間内で意思統一し分配する。 ②会費をコミュニティ内で集金。 ②広報活動でスポンサーを募る。 ②観光産業(シェアハウス等)で地域全体で稼ぎを得る。 ノウハウ連携だけじゃない。	①事業計画を明確にし、ダブリに注意しながら助成金・補助金を複数使う(農業振興補助金等)。 ①まずは農業を軸に考える。 ①他社工場を一時的に借りる(福祉文脈で支援仰ぐ)。 ①圃場のソーラー発電。 ②現地の産業構造や人口動態の調査をし、他地域と比較して参入可能な分野なのか分析する。 ①②試験販売で投資判断する。 ①②投資効果をしっかり見極める必要性(コンサルも活用)。
課題	①栽培に係る経験・知識不足。 ②農家と違う時間軸(お昼食べたらお昼寝→事業所は昼も仕事)。 ③天気が予想しにくく仕事にムラ。	①農業以外の仕事について、雪かきなど、いつ仕事が入るか分からない(収入不安定)。 ②コミュニティ構築に時間を要する。	①生産・加工・販売と多様な作業で習得に時間がかかる。 ②加工や販売などの、ビジネス感のあるスピードと、福祉の世界観が相反する。
時間	課題の解決法 ①長期に渡る栽培がしやすい品目は技術の向上がしやすい(枝豆などは5ヶ月間ぐらい種まきをする)。 ②朝早く初めて屋で引き上げる等して時間を調整する。 ③明日雨が降りそうとなれば収穫たくさんして翌日出荷用にストック。	①可能な限り、農閑期や悪天時の作業を蓄積しておく。 地域ネットワークを築く。 ②UNEごはん等の工夫→地域住民に無料食事イベント等を実施。	①作業分析し細分化、適材適所で分担する。専属スタッフとする。 ①得意分野で連携事業者などを募る(地域連携で進める)。 ②ビジネスのスピードに合わせて作業環境構築で、『福祉だからこれくらいいい』というような社会との意識乖離を防ぐ。 ②ブランド化(ストーリー・メッセージ性)で稼ぐ。
課題	①気候に応じた品目の選定方法。 ②利幅のとれるものの選定方法。 ③農業だけだと不作時のリスクがある。	①地域を巻き込み様々な視点を取り込むと多角化に進み、注力すべき分野が見定めにくくなる。 ②農業以外に安定的な仕事とは。	①生鮮野菜等は傷みやすい。 ②果物も傷みやすい
品目	課題の解決法 ①農業用ハウスでの共用栽培。冬期間は暖房不要の寒締ほうれん草等の越冬野菜栽培。雨でも収穫できる雪でも収穫できる作物を選ぶと良い。例えばブロッコリーは雪が降った後も収穫に入れる作物。 ②大規模農業に向く野菜等。ほうれん草のタネマキ等は機械化による効率性アップが容易。 ③近隣農家と種を融通し合うなどで、全滅を防ぐ。	①品目自体の選定はみんなでない：HP、道の駅での販売等、売り方のみをみんなで考える。 ①不足しているものを融通しあって補い合うことで多品目に展開可能。 ①外注の活用。 ①ふるさと納税などの統一テーマをベースにラインナップなどを考える。 ①ノウハウJASの取得による特徴付け。 ②土壌消毒(かんおこし)やハウスの整備、畜産(時期選ばない)を請け負う。	①生鮮野菜ではなく、サツマイモなどの日持ちがし、干芋などに加工できる作物を扱う。雨や雪の間は出荷作業に専念できる野菜を品目選びしておく。 ①②生鮮品と時間差での出荷ができるようなジュースや精油等に加工でき保存が容易なものを選定する。 ②放置されている設備を借りて、まずできるものを探す。 ②自社栽培と仕入れのメリハリをつけ、必要時に地域の生産物を買取りする。